

令和6年度 京都府立大学 一般選抜試験（後期日程）
入学者選抜学力検査「国 語」（日本・中国文化学科）

○解答例

一

問一 ①加盟 ②妥当 ③露骨 ④恒 ⑤時分

問二 A = 制度 B = 相対

問三 対立するものは、遠い存在のように見えて、対立の前提となる比較の基本的な次元や尺度が共通すること。

問四 *I'm hungry*のような言語表現は、英語による言語共同体の存在を前提とし、その中でこそ同じ意味を持つものとして成立するが、英語による共同体は、このような表現が同じ意味を表す共通の言語があるからこそ成立するものであって、お互いに、一方の成立にもう一方の存在を前提とする関係があり、規定の中に堂々巡りが生じるという点。

問五 安定した規則性の高い言語が私たちの意識のなかにあるという期待

問六 ある言語内 ～ だと見なす（こと）

二

問一 ア じつにすばらしく イ 不十分ながら
ウ 破壊しないことに越したことはない エ ひょっとして

問二 全く慢心もよろこぶ心も何とも思わないのは

問三 風流心

問四 信用できる人が話してくれた通りに私が実行したということ。

問五 骨を集めて作った人間には、声が出るということだけを企てて、心を入れることをしなかったから。

三

問一 a : かつて b : まさに c : あに d : およそ
e : のみ (のみならんや)

問二 人に壁にそれ (シルエット) をなぞらせておいて、眉や目は描かなかったが、見たものはみんな思わず笑い出した。

問三 (1) ほうはまさにしゅうちゅうにおいてひそかにこれをさっすべし
(2) 方法としては大勢いる中でこっそりそれ (様子) を見るべきだ。

問四 三本毛を加えればいいということは、その人の精神はひげと頬の間にあるということなのだろう。

問五 (1) がしゃをしてこのりをさとらしむれば
(2) 絵を描くものに、肖像画を描くときはその人物の本質をつかむのが
要点だということを悟らせれば